

福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第4回会議		
日時	令和元年 10 月 15 日（火）19 時 30 分～21 時 30 分	場所	福野庁舎 2 階 201 会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：3 名 、地方創生推進課：2 名		
内容	・ 具体的な取組内容の検討		
概要	◆浦井リーダー挨拶 ○前回の会議では、コンソーシアムを設立する際には、この活動の背景や目的を明確にしなければならない、というところで議論を終えた。今日はこの続きをしたいと思っているが、まずは、皆さんにお願いしていた意見書について意見交換し、具体的な取組内容を検討したい。 ◆資料 2「今後の取組内容についての意見書」の内容について確認 ◆具体的な取組内容の検討（○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言） ○まずは、「どんなジャンルの団体に入ってもらうか」について。団体を対象とする意見もあれば、団体の中の個人を対象としている意見もある。 ●個人を対象にするのは難しいのでは。 ○声を掛けるのは団体、あるいは、任意の小さなグループをイメージしていた。 ●人づくり、つながりづくり、地域づくりを柱として考えると、団体に入ってもらう時の目的をどうするのが重要かと。機関紙が入口となって、団体に興味を持ったり、団体を応援するサポーターが出現したりするということなどが考えられるだろうか。 ○機関紙が目的ではなく、団体につながってもらうための入口だとすると、それが個人の場合は対応が難しくなると思う。 行政に、各種団体のリストなどはないのか？ →まとまった物は恐らく無い。あったとしても、補助金を受けている団体や公共施設の減免登録団体などに限られるだろう。しかも、リストの更新もされていないのでは。何か必要な時にだけ現状を確認するという対応だと思う。 ●心配しなくても、取り敢えず、商業・工業関係は商工会、農業関係は農政担当に確認すれば分かるだろう。 →サークル的なものまでの把握は難しいだろうと思われる。 ●歴史を語れる人が必要。しかし、時の会は活動を休止しているようだ。 ○その他、対象は、文化・芸能団体になるだろうか。 ●福野地域に限定するなら、芸能団体を取りまとめた福野芸能協会があるので、そこで確認出来る。 ○地域の祭りや建造物に関することであれば、観光ボランティアになるか？地域の子供たちに何を語るか。獅子舞は、先日の市のイベントの関係で一覧が作成されており、獅子舞のルーツなども把握出来るだろうが、それ以外の村の行事は、村の長老に聞くしかないだろう。そうやって地域の人にインタビューしていけば、少しずつ全体像が分かってくるはず。年配の方に聞かなければ分からない事こそ取り組むべきと考える。そして、取組む意味をしっかりと決めて、それも伝えていかないと、消滅してしまう。 ●商業・工業・農業は比較的容易だろう。それらについて語れる人はある程度見込める。一方で、歴史・伝統・文化系は大変そう。既に、伝統文化の継承がネックになっている。 ○商業・工業・農業・歴史・文化というのは、階層になっている気がしている。歴史・文化は直接的な魅力ではないけれど、敢えて光を当てることで、他所から来た人にも分かり易くなる。 ●例えば、米国ポートランドが、全米で一番住み易いと選ばれるのは何故かということ。住み易さは氷山の一角であり、その隠れている部分をいかに理解するかが重要。 ○便利さや住み易さは真似出来るが、歴史・文化は真似出来ない。 ●いろいろと情報発信することで、大人に伝えることは出来る。しかし、子どもに伝えるのであれば、例えば、ある課題があって、その課題解決のために子どもを巻き込む、ということでもなければ難しいだろう。新商品の名付けなど。 ○コンソーシアムとは別立てで考えていくべきかもしれない。 ●コンソーシアムが機関紙とどのようにつながっていくか。 ○機関紙がコンソーシアムを知る手立てにはなるだろう。 ●このグループでは、どこをゴールとすれば良いか。 ○機関紙という媒体が、本当にふさわしいのかどうか。子ども向けであれば、紙ではないのではないかと思う。		

- 子どもに特化すると、紙ではないような気がする。いずれにしても、全員には響かないだろうが。
- 学校からたくさんのお便りをもらってくるが、興味を示すようなものがあるか。
- 子どもからの発信はない。親から言うのがほとんど。
- 小学2年生は授業でまち探検をしていて、福野のまちの中を歩いている。そのことはいろいろと教えてくれる。
- 足を運んで、見たり聞いたりしたことが一番記憶に残る。
- 子どもたちには、体験が一番効果的なのではないか。
- 祭りがなくて楽というのも移り住む理由の一つ。多様性というか、積極的に祭りに参加する人もいれば、子どもを通じて参加する人もいるし、全く参加しない人もいる。強制参加ではなく、適度に緩く参加出来るのがちょうど良いのかもしれない。
- 親も一緒に体験するのが良いだろう。体験は、子どもだけでなく、大人にも響く。
- 特に他所から来た方には、何かしら体験する機会があると良いだろう。
- 機関紙を作るとしても、子どもが読めるような内容にしなければならない。あくまでも子どもたちに戻ってきてもらうのが目的。
- そして、次世代の担い手作りにつなげる。
- 資金調達はどうか？スポンサーという意見もあったが。
- 例えば、城端時報では、紙面にたくさんの広告が掲載されており、それらの協賛金が資金源となっているのではないかなと思う。
- 資金調達の話は次回の課題としてはどうか？
- お金を集めるとなれば、お金を出す人の魅力やメリットがないとダメだろう。そう考えると寄付の方が馴染むのか？頻繁に寄付ももらえないが。それとも、趣旨に賛同してもらって、広告料をもらうか。だからと言って、広告主寄りの記事を書くのは、我々の趣旨に反する。
- まずは賛同を得ることが重要だろう。
- サポーターのような、応援してくれる人をどのように集めるか。そうしないと続かない。
- 目に見えるような取組みではないから、なかなか難しい。
- 同じような分野に偏らず、もっといろいろな角度から、いろいろな人が関わって、魅力となる。そう考えると、構想としては、いかに多様なものとするかが肝ではないか。ある一部分だけ、というのでは片手落ちのような気がする。
- 親の姿を見て子は育つ。親の一生懸命な姿は、子に映り、それが次につながると思う。
- 五箇山では春祭りが熱心に行われているが、親の一生懸命な姿が子どもには格好良く映っている。早く親のように祭りに参加したいと思う子どもが多いと聞く。
- 我々の掲げている地域愛も色々だが、地域に戻ってきて、地域のために活躍する子どもを育てたい。
- 親向けの機関紙の発行と子どもが参加出来るような体験活動の実施が有効か？
- 親に響くような機関紙で、且つ、親子で体験活動に参加してもらう、というのが理想的。
- お父さんだけでなく、特にお母さんが気持ちよく子どもを連れて地域活動に参加出来るような家庭環境作りを工夫することも大事。
- 今回の検討内容は、1つ目は資金調達方法。2つ目は、サポーターの獲得方法。思いは大事だが、その他にどんなやり方があるのか。そして、誰の心を掴むのか。どこかに、地域を巻き込んでの事例がないだろうか。
- 小学生、中学生、高校生の中でも、誰をターゲットにするか？高校生では、意識を刷込むにはもう遅いとの話もある。しかし、課題解決策を考えるのには相応しい。意識を刷込むには小学生が適年齢ということになるか。
- 親についても、小学生の親をイメージすればどうか。中学生や高校生の親も対象とすると、幅が広過ぎて、それぞれの世代向けのプロジェクトが必要となる。親子で活動するのは小学生までが多いだろうし。
- 中学生、高校生なら、本人が課題に対する提言をして、その提言を実現する、という内容の方が良いだろう。
- コンソーシアム作りに機関紙が必要かどうかという点もまだ検討の余地があるが、協力者や支援者の集め方を情報収集したい。趣意書のようなものが出来れば良いと思うので、我々の活動の目的や背景を次回までの宿題として、明文化してきてほしい。何となくは出ているけれども、文章化までには至っていない。これは細かい部分で大切になってくる。キーワードや盛り込みたい表現でも良い。
- 福野地域提言実現検討組織の3グループの合同会議をして、各グループの進捗を確認してはどうか、という提案がある。また、年度内に住民向け説明会が出来れば良いと思っている。

●（全員）異議なし

◆次回会議

日時…令和元年 11 月 12 日（火）午後 7 時 30 分から

場所…福野庁舎 2 階 201 会議室

内容…具体的な取組内容の検討

- 宿題…①（コンソーシアムの創設に向けて）コンソーシアムの目的・背景の明文化：
キーワードだけでも可
②コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕
組み」についてのアイデア
③機関紙の発行の仕組み（資金面・企画面・実行部隊それぞれ）のアイデア

福野地域提言実現検討会議 人づくりグループ 第4回 R元.10.15(X)

① 地域を語れる人材バンクのリスト作成
にあたり、どんなジャンルの団体に入ってもらうか？

・機関紙を入口にすると良いのでは。
→ 個人を対象にすると難しくなるのでは？

・歴史を語れる人が入ってほしい。→ 由来などを語り継がたら...

② 子どもたちに何を語ってもらうか？

- ・歴史 ・商業、工業、農業
- ・伝統文化の継承 etc
- ・いろいろな分野で、多様性のあるリストにしたい。



- ・「子どもたち」に特化するなら、
機関紙ではない方法なのでは？
- ・小学校の社会科や総合学習での経験が地域への愛着につながるが良い
- ・子どもたちに体験させることが大事
- ・子どもたちも読める機関紙を！
- ・「親の一生けん命は姿」を子どもにどうみせるか？

② 持続可能な機関紙発行の仕組みをどうするか？

- ・スポンサー寄りになると本末転倒
- ・賛同を得るような内容・目的でないとダメだろう。

→ サポーター、協力者、理解者

- ・スタートさせるための資金
 - ・継続させるための資金
- 集め方がう

・親に響くような機関紙を目指す

・お母さん重要、お父さんもっと重要
小学生の親御さんをイメージすればどうか？

- ・コンソーシアム作りに、協力者や支援者の集め方を情報収集したい。
- ・趣意書のようなものが出来れば良い。

次回の検討内容

① 資金調達方法、② サポーターの獲得方法

宿題

・支援者の獲得方法

・目的・背景と作文

キーワードO.K.

次回会議

1. 目的・背景を明文化する。
2. コンソーシアム化
3. 合同会議に向けてのまとめ

11/7(木). 12(火) 15(金)のいずれか
19:30 Start!

合同会議

12/2, 10ならO.K.です
この日で決定可。

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第3回会議		
日時	令和元年9月17日(火) 19時30分～21時	場 所	福野庁舎2階 201会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：4名 、地方創生推進課：2名		
内容	・具体的な取組内容の検討		
概要	◆前回のフィードバック（事務局より） ◆資料「わたしたちの南砺市」の説明（橋爪氏より） ●これは、小学3年生の我が子が社会科授業で用いている教材。自分たちの住んでいる地域の事を知るような内容になっており、せっかく授業で取り上げているのであれば、このグループの活動や検討事項の一つになるのではないかと思います、取り寄せてもらった。また、この教材を編集された教員の皆さんから、本教材作成の意図やねらいを伺う機会を設けたいとも考えており、近いうちに、この会議でお話していただくよう依頼済みである。この教材を、親子で地域を知る材料に活用出来たら、と考えている。 ◆資料「わたしたちの南砺市」について (○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言) ○この「わたしたちの南砺市」のほかにも、市で作成した教材はあるか？他にもあれば、全部見せて欲しい。 →また確認し、次回会議に提示したい。 ●この教材のような地域学習は、小学3、4年生で取り組んでいる。 ○確かに、教科書にも「地域のことを知ろう」という項目があり、富山県の事を調べるページがあったり、テストでも富山県の地理的な問題があったりと、地元の事を学ぶ時間がある程度とってあるのだろう。 ○教材を見ると内容が多岐に渡っているので、この内容全てを学習しているのかは、いささか疑問である。 ●その点も教員の皆さんから伺いたいと思っている。 →広い南砺市について、たくさんの事が掲載されている。新しい教材を作って、それで何かやってくれと学校に働きかけるよりも、今あるものを活用していけば、学校の負担も少なく、受け入れられやすいのではないと思う。 ●この教材の作成に、どのような人が関わっているのかも伺いたい。 ○このような教材を基に、親子で会話するのも良いだろう。 ○現在、子どもからこの教材についての話を聞くことはない。これは学校の教材だから、どこまでこのグループの思いを盛り込むことが出来るかは分からないが、この教材が、どんな視点で作られているのか確認したい。 ●「親の思う■■■」と「子どもの思う■■■」とか、このような視点の違いが一つの切り口になれば良いと思う。 ○歴史については、そんなに書かれていないようである。 ●広く、浅く、だろうか？ ●以前、商工会福野支部で「福野検定」を作った。建物・歴史、特産・産業、などの分野別に、合計100問ぐらいだろうか。 ●七転び八起き塾では「なんと検定」を作った。 ●「福野検定」は作って満足して、以後の利用は不明である。問題を作っている過程で、自分よりも年上の方でも知らない事がけっこうあった。マニアックな内容だから、子ども向けには活用は難しいかもしれない。 ○例えば、親子で解いてみるとか、問題に合わせてウォークラリーをすとか。商工会で作った検定は福野だけ？他の地域にもあるのでは？七転び八起き塾の「なんと検定」は市全域が対象だろう。 ●小学2年生は「夜高について調べよう」という課題もある。頑張っ取り組んだら「夜高博士」になれるような仕組みづくり。 ○福野に特化してガイドブックや検定を作っても、上手く運用されなければ意味がない。どのように使うかが重要。 ●例えば、学校のカリキュラムにどのように組み込むか。 ●親子で「福野の▲▲について調べよう」とするもの良いだろうか。 ●しかし、地元を学ぶような取組が学校の授業で行われていても、それで人口流出に歯止めがかかるというわけではない。		

- この教材では、深く踏み込んだ点には触れられていないようだ。例えば、買い物の部分については、買い物先は調べているが、「南砺市で買いましょう」とまでは書かれていない。
- こちらの立場で言えば、一步踏み込むような視点でやって欲しいところである。
→地元で買うことのメリットを謳わないと、行動には結びつかないのでは？
- ◆具体的な取組内容の検討について
(○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)
- さて、どんな方向性で行くか？どういう人をつくるか？である。「知る」と「つくる」では、どちらになるだろうか。また、どういう地域の魅力づくりにするか。このことについて、このグループで検討していきたい。
- 「人づくり」がこのグループのテーマの一つだから、「地域を知る」になるのではない。但し、「知る」だけではなくて、子どもなりの課題をもって「知る」になれば良いと思う。
- まちの魅力を感じてもらうにはどうしたら良いか？例えば、まちなかを歩く機会があれば魅力も分かるだろうか？
- 猿ヶ辻公園とまち中を流れる芝井川沿いをつなげるルートが、福野の情緒を感じさせるような雰囲気があり、地域の魅力を感じる材料となるのでは。
- 今はバラバラに点在しているものが、つながって線になり、それが面となってエリアとして機能していかないとダメだろう。エリア全体が機能するイメージ。
- 福野家守舎のリノベーションのように、点が出来てきて、それが魅力の発端となれば良いと思う。
- 便利さとは別の、何か魅力を見出さないとダメだろう。
- それが、「人」なのか、「交流」なのか。
- 市内店舗で何か一つの物品を買おうとしても、店舗により価格のバラツキが大きく、且つ高い。また、品物も揃わないので、地元で買いたくても買えない現実。
- 売れない →在庫を抱えられない →取寄せ（対応に時間がかかる） →売れない、の悪循環になっている。
- 買うという行為は全国どこでも可能だから、この視点は外すべきだろう。
- 買い物は大手には勝てない。
- 福野の魅力は、やはりコンパクトシティであること。小中学校に近い、日常の買い物先が近い、という点だと考えるが。
- 本当にそれがあらゆる世代の魅力となるのか？まちづくり検討会議での議論も「人口流出を止めたい」が発端。例えば、元々福野のアパート等に住んでいる家族が家を建てるとなればコンパクトな点が魅力となって、福野に家を建てようということになるかもしれないが、福野から転出した人が戻ってきたいという理由にはなかなかならない。コンパクトな点を謳っても人口流出は止まらないと思う。
- 例えば、今、福野のアパートに住んでいる家族にとっては魅力として映るかもしれないが、結婚しようかどうかという段階の人たちには魅力としては映らないということか？
- 例えば、これから結婚しようかと考えている人たちは、福野にこだわらなくてもどこにでも住むことが出来る。このような人たちに魅力を訴えて、その訴えた魅力が地域の魅力とつながるのであれば良いと考える。
- 福野の魅力を上手く子どもたちに植え付けることが出来たら良い、ということを検討会議でも話してきた。
- 子どもと、単にまち歩きをただけでは、そのまちの魅力は子どもには伝わらない。
- だから、子ども、それも高校生にまちづくりの経験をさせてあげたいと思って、福野高校にアプローチした。
- 前回の会議の流れから、高校生よりも、小中学生の方が取り組みやすいという話だったが、どのように結びつけられるだろうか？
- 小学校では、このようなテキストを上手く利用して、具体的にまちづくりを学べば良いのではない。高校生は、進学や就職で転出する機会の目前だから、提言では、敢えてそこをターゲットとした。高校生でやろうとしたことを中学生でやるのは無理だろうか？
- 子どもたちにまちづくりの経験をさせることが、遠回りだけど正解の一つだと思う。根気強く続けることが、結局は近道なのではないか。まちづくりの方の話と一緒に取り組めば、一人でも福野を好きになってくれるのではないだろうか。
- 自分の地元の地域づくり協議会では、目の前の課題ではなく、20年30年を見込んで、そのための種まきのために活動している部会がある。

- 自分たちのような、地域にいる大人が、同じ地域の子どもたちに教えたり、逆に学びに来てくれたりするような取組が継続していけるような仕組みが絶対に必要であり、根幹だと思う。
- 結果はすぐに見えないだろうが。
- それは、大人が学校に出向くのか、それとも、子どもがこちらの方に来てくれるのか、どちらだろう？学校と共に作っていく、というイメージではない。長く続けていくことが「種まき」だとすれば、どちらの方法が良いのだろうか？
- 地域の事柄をいろいろ話せるような語り部のような人をどんどん増やしていくという意見では、学校に出向くのも、こちらの方に来てもらうのも、両方必要だろう。
- 地域の事を語れる人材バンクみたいなリストを持っておいて、それを小中高校に見せておけば、必要な時に学校からの派遣要請に対応したり、こちらに来てもらったり、というような事例もある。地域に特化しなくても、学校からの要請があれば出向くし、声が掛からなくても、他の自分たちの活動をやり続けていくイメージなら、可能なのかも。例えば、様々な会をリスト化して、フィールドワークを実施するとか。
- そんなリストがあれば、学校でもニーズはあると思う。
- いろいろな会を取りまとめる、様々なグループの連合体。
- 学習以外の事も話してもらおうと、意外と心に響くかもしれない。どうやってグループを把握、情報収集するか？
- 登録制ではないだろうから、まとまったものはなかなかないだろう。
- 収集するだけで一仕事になるか。
- 文科系団体なら文化協会、農業系なら農協に尋ねるのが良いのでは？
- 基本を押さえれば、バランス良く網羅出来るのではないかな。徐々に深くなれば良いだろう。まずは、リストを作る。次に、自分たちの活動の実施。同時進行で、学校にアプローチしていく。ところで、このグループでの予算はあるのか？
- このグループでの検討が、具体的な取組に発展すれば、予算対応も可能。
- 各グループがどんな活動をしているのか、情報発信するような内容のかわら版として、配布等すれば、それがきっかけとなって、その会のことをもっと知りたい、という声が挙がるかもしれない。
- それは取組の一つになると思う。
- 新聞をきっかけに、人材募集とか新規事業実施とかにつながりそう。
- 継続して発行する仕組みを作りたい。
- 城端時報は月1回発行している。運営資金は、広告や寄付金だったかと。
- 新聞の周囲の模様には福野縞を使いたい。
- 今日の会議をまとめていくと、一つは、地域のことを語れる人材バンクのようなリストを作る方向で今後進めていくということ。まず、商業、工業、農業、そのほか、どんなジャンルの団体に入ってもらえばいいか、アイデア出しをする。そして、それを整理して、リスト化する。リストが出来れば、各団体へのアプローチ、及び協議会（コンソーシアム）の立上げを具体的に検討する。もう一つは、登録した団体の情報発信する内容の新聞発行についての、持続可能な仕組みづくり。
- このグループの方向性が見えてきたようだ。各団体に向けてアプローチする際には、この活動の背景、目的を明確にしないと賛同してもらえないから、そのことについて十分に検討を重ねる必要がある。
- 福野ジモト大学（仮）に近づいてきたか。
- リスト化でどんなジャンルの団体に入ってもらえるかのアイデア、それと、持続可能な新聞発行の仕組みづくりのアイデア、協議会設立のノウハウ（手順）が分かれば調べてくること、を宿題とする。次回会議の前日までに各自、事務局に報告するということがよいか？
- （全員）異議なし
- ◆次回会議
 日時…令和元年10月15日（火）午後7時30分から
 場所…福野庁舎2階 201会議室
 内容…具体的な取組内容の検討
 宿題…リスト化でどんなジャンルの団体に入ってもらえるかのアイデア出し、持続可能な新聞発行の仕組みづくりのアイデア出し、（分かれば）協議会設立のノウハウ（手順）

◎市で製作した地域を学ぶ教材を確認し、取寄せて、提示すること

グループ名：人づくりグループ

**1. 地域を語れる人材バンクのリスト作成にあたり、どんなジャンルの団体に入ってもらうか？
（例：商業、工業、農業、…）**

- ・暮らし（商業、工業、農業…）
- ・福祉（ボランティア、地域…）
- ・文化（歴史、伝統工芸、祭り、伝承…）

？各種団体は行政にリスト化されていたりしないのか？

**2. 人材バンク参加団体の情報発信の機関紙を発行するにあたり、
持続可能な発行の仕組みをどのようにするか？**

- ◎資金
 - ・スポンサー（企業、南砺市、各種団体）
 - ・購読料
 - ・寄付
 - ・補助金（赤い羽根とか）

- ◎人材
 - ・ライター
 - ・コーディネーター
 - ・企画

3. 協議会設立のノウハウ（手順）について、分かれば調べてくる。

※小規模多機能住民自治とは棲み分けする必要あり

- ◎参考程度の情報提供
 - ・協議会設立までの流れ（中心市街地活性化協議会支援センター）
<https://machi.smrj.go.jp/about/establish.html>
 - ・医療分野 チーム医療推進協議会
<http://www.team-med.jp/>
 - ・法人格のない任意団体（小さな拠点）：内閣府
https://www.cao.go.jp/regional_management/case/subject/voluntaryorg/index.html

連絡事項

グループ名：人づくりグループ

**1. 地域を語れる人材バンクのリスト作成にあたり、どんなジャンルの団体に入ってもらうか？
（例：商業、工業、農業、…）**

文化・芸術（福野独自・特徴的なもの）、祭り（行燈（町、田祭り））、
観光ボランティアガイド、商工会（青年部、女性部）、J C、
工業（工場見学（コマツNTCとか川田工業とか））、農業（サトイモ、米、花、玉ねぎ）、
家守舎、消防団

**2. 人材バンク参加団体の情報発信の機関紙を発行するにあたり、
持続可能な発行の仕組みをどのようにするか？**

作る人 →企画、取材、投稿・寄稿、編集、校正 →印刷・発行
おカネ →スポンサー →広告料を払うだけの魅力
既存の機関紙・フリーペーパーとのタイアップ・コラボ

3. 協議会設立のノウハウ（手順）について、分かれば調べてくる。

協議会を新たに作るというよりも、コンソーシアムを組む？なのかな？

連絡事項

グループ名：人づくりグループ

**1. 地域を語る人材バンクのリスト作成にあたり、どんなジャンルの団体に入ってもらうか？
（例：商業、工業、農業、…）**

商工業や農業などの方になると、いつも同じ顔触れになってしまうので、人選が難しい。
基本的には、伝統文化・芸術方面の中心的人材、商工会では、やはり青年部女性部になるだろう
か。
家守舎や商店会、消防団。
子育て面では、地元出身の教職員。特に、教育や子育て面に力を入れたいのではと思う。
仕事面では、暮らしにより身近なジャンルが望ましい。電気屋さん、配管屋さん、大工さん、造園屋さん
など。

**2. 人材バンク参加団体の情報発信の機関紙を発行するにあたり、
持続可能な発行の仕組みをどのようにするか？**

記事を作る人は、公募で、年単位で募集すればどうだろう？
その中には、子どもから大人までが寄稿出来る仕組みが良いと思う。

問題は、資本。
これからは地域からの寄付がメインになるだろう。

3. 協議会設立のノウハウ（手順）について、分かれば調べてくる。

山ほどある協議会は、もういらなだろう！
コンソーシアム化を目指して、やろう。

連絡事項

グループ名：人づくりグループ

**1. 地域を語れる人材バンクのリスト作成にあたり、どんなジャンルの団体に入ってもらうか？
(例：商業、工業、農業、…)**

商業、工業、農業、福祉、行政、教育、まちづくり団体、スポーツ団体、歴史伝統文化継承に関わる団体。

人づくり、つながりづくり、地域づくりが柱となっていると思うので、そこを理解してもらって、参画してもらうことが必要。

2. 人材バンク参加団体の情報発信の機関紙を発行するにあたり、持続可能な発行の仕組みをどのようにするか？

発行にあたり、情報収集は各団体で。

編集は、コンソーシアムで。

資金調達は、協賛、寄付。

◎共感・愛着・信頼される機関紙を目指しましょう！

3. 協議会設立のノウハウ（手順）について、分かれば調べてくる。

コンソーシアムで。

連絡事項